

授業科目	看護学概論	単位数	1	授業時間	30
担当者	小林愛子・臨床経験 14 年	学年	1	講義時間	29
科目目標	1. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する。 2. 人間のライフサイクルにおける健康の意義について学ぶ。 3. 看護の本質を理解し、総合保健医療体系の中で、看護の概念を明確にする。 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を学ぶ。 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する。				
回	授業計画・内容				方法
1 回	授業を始めるにあたって：学問をすることは 看護における技術とは				講義
2 回	1. 看護の語源・看護の原点				講義 演習
3～5 回	2. 看護の定義 3. 私たちが目指す看護師像 4. 看護の変遷 1) 職業としての看護の誕生と発展 2) わが国の職業的看護の発展				
6・7 回	5. 看護の対象としての人間 1) 生物体としての特性 2) 統合体としての人間 3) ストレスと適応				
8・9 回	6. 健康の概念と定義 1) 健康のとらえ方 2) 国民全体の健康像 3) 健康への影響要因				講義
10・11 回	7. 看護の役割と機能 1) 看護の役割と機能とは 2) 看護が機能する場 3) 他職種連携				講義
12 回	8. 職業としての看護の新たな展開（これからの看護） 1) 看護職の担い手の拡大 2) 診療の補助業務の拡大 3) 高齢化への対応 4) 看護職のキャリア開発				講義
13 回	9. 看護理論 1) 理論の理解と事例への活用				演習
14 回	テスト・まとめ				演習
15 回	看護理論レポート発表				
テキスト	系統看護学講座 看護学概論 基礎看護学① 医学書院				
参考書	フローレンス ナイチンゲール：看護覚え書き 日本看護協会出版会 ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの 日本看護協会出版会 看護者の基本的責務－基本法と原理－ 日本看護協会 看護の本質 現代社				
評価方法	筆記試験 70 点/100 点 課題 30 点/100 点				
備考					

授業科目	看護倫理	単位数	1	授業時間	30
担当者	小林愛子・臨床経験 14 年	学年	2	講義時間	29
科目目標	1. 看護者としての基本的責任を果たすため、看護者のあり方としての倫理を学ぶ。 2. 人間尊重の精神に基づき人間としてのあり方、生き方について理解と思索を深め、倫理に基づいた行動がとれる能力を養う。				
回	授業計画・内容				方法
1 回	1. 看護倫理とは 1) 倫理とは 2) 看護倫理とは 3) 看護倫理の歴史				講義
2 回	2. 看護研究の倫理 1) ヘルシンキ宣言の要点 2) 我が国の倫理指針 3) ケアの受け手を対象に研究を行う際の倫理的配慮 4) 倫理審査・利益相反				講義
3 回	3. 看護の倫理原則 1) 善行と無害、自律、正義、誠実、忠誠 4. 看護実践上の倫理的概念 1) アドボカシー、ケアリング、責務、協力				講義
4 回	5. 看護実践と倫理 1) 患者理解に基づく倫理的な看護実践 2) 専門職の倫理的判断の構造				講義
5～8 回	6. 専門職の倫理 1) 専門職の倫理綱領 2) 事例検討 第 1 条～第 6 条				講義
9 回	3) 看護業務基準と倫理実践 4) 保健師助産師看護師法と倫理				
10・11 回	7. 学生が臨地実習で遭遇する倫理的問題 1) 事例検討				講義
12～14 回	8. 倫理的問題へのアプローチ 1) 看護実践における倫理的問題の特徴 2) アプローチ方法 (1) Jonsen らの症例検討シート (2) トンプソン&トンプソンの意志決定モデル (3) サラ・フライの倫理的分析				講義
15 回	テスト・まとめ				
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護倫理 医学書院				
参考書	看護者の基本的責務－基本法と原理－ 日本看護協会				
評価方法	筆記試験				
備考					

授業科目	共通基本技術	単位数	1	授業時間	30
担当者	疋田理津子・臨床経験 6 年 大家枝利・臨床経験 12 年 吉田輝子・臨床経験 26 年 看護師	学年	1	講義時間	29
科目目標	1. 看護活動に共通する基本的看護技術を習得する。				
回	授業計画・内容				方法
1・2 回	1. コミュニケーションの技術 1) コミュニケーションとは 2) 対人プロセスとしての看護 3) 看護におけるケアリングとコミュニケーション 4) 看護理論とコミュニケーション 5) 看護とコミュニケーション 6) コミュニケーションのプロセスに影響する要因 7) 医療における信頼関係とコミュニケーション				講義
3・4 回	2. 看護記録・報告 1) 看護記録に関する法的規定 2) 看護記録の目的と意義 3) 看護記録の構成要素 4) 看護記録の記載基準 5) 看護記録および診療情報の取り扱い 6) 看護学生の情報管理 7) 報告の方法と種類				講義 演習 SOAP 記載 経時記録
5・6 回	3. 学習支援 1) 看護における学習支援 学習支援の背景・技術の発展 2) 健康に生きる事を支える学習支援 健康の状態の変化に伴う学習支援				講義
7 回	4. 感染と感染予防策の基礎知識 5. 感染予防における看護師の責務と役割				講義
8 回	6. 手洗い 個人防護用具の使用法				演習
9 回	7. 感染源への対策				講義
10 回	8. 感染経路への対策 1) 標準予防策 2) 感染経路別予防策				講義

11回	3) 滅菌物の取り扱い 4) 隔離法および感染源の拡散防止 5) 針刺し・切創・血液暴露事故防止	演習
12・13回	9. 滅菌物の取り扱い 手袋の装着・ガウンテクニック	
	10. 安楽確保の技術 1) 看護における安楽の意義 2) 安楽な体位の保持 3) 看護における力学の応用 4) さまざまな安楽確保の技術 5) 罨法	講義
14回	11. ポジショニング	演習
15回	テスト・まとめ	
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学② 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディック メディア	
評価方法	筆記試験	
備考	自己学習項目 日常的手洗い 衛生的手洗い ラビング法	

授業科目	フィジカルアセスメント	単位数	1	授業時間	30
担当者	軽部太一・臨床経験 15 年 山谷なぎさ・臨床経験 22 年	学年	1	講義時間	29
科目目標	1.対象の系統的な観察、フィジカルイグザミネーション（身体診査）は五感を用いて対象の健康状態を診察する。 2.身体的、心理的、社会的側面から把握し評価する技術を習得する。				
回	授業計画・内容				方法
1回	1. フィジカルアセスメントとは 1) フィジカルアセスメントの意義 2) 系統的アセスメントとフォーカスアセスメント				講義
2回	2. フィジカルアセスメントの基本技術・身体計測				講義
3回	3. バイタルサイン				講義
4・5回	4. バイタルサインの実際				演習
6回	5. 呼吸器系のフィジカルアセスメント				講義
7回	6. 循環器系のフィジカルアセスメント				講義
8回	7. 胸部の聴診の実際				演習
9回	8. 腹部・消化器系のフィジカルアセスメント				講義
10回	9. 腸蠕動音の聴診、腹部の触診の実際				演習
11回	10. 乳房・腋下のフィジカルアセスメント				講義
12回	11. 乳房の視診・触診の実際				演習
13回	12. 体表面のフィジカルアセスメント 13. 感覚系のフィジカルアセスメント				講義 講義
14回	14. 運動系のフィジカルアセスメント 15. 脳神経系のフィジカルアセスメント				講義
15回	テスト・まとめ				
テキスト	看護がみえる③ フィジカルアセスメント メディック メディア				
評価方法	筆記試験				
備考					

授業科目	看護過程	単位数	1	授業時間	30
担当者	大家枝利・臨床経験 12 年	学年	1	講義時間	30
科目目標	1. 看護過程の基盤となる考え方が理解できる。 2. 看護過程の各段階の基本的な考え方を理解し、事例を展開できる。				
回	授業計画・内容				方法
1・2回	1. 看護過程とは 1) 看護過程と問題解決法 2) 看護過程とクリティカルシンキング 3) 看護過程とリフレクション 4) 看護過程と看護理論の関係				講義
3回	2. 看護診断 1) 看護診断とは 2) 看護診断の構造の理解				講義
4回	3. 看護過程の構成要素 1) 情報収集 (1) 主観的データと客観的データ				講義・演習
5回	2) アセスメント				講義・演習
6回	3) 関連図				講義・演習
7回	4) 看護診断				講義・演習
8回	5) 優先順位				講義・演習
9回	6) 看護目標 (1) 短期目標と長期目標				講義・演習
10~15回	7) 具体策の立案 8) 実施 5) 評価				個人ワーク 及び GW
10~15回	4. 事例を用いた看護過程の展開				個人ワーク 及び GW
テキスト	系統看護学講座 基礎看護技術 I 基礎看護学② 医学書院 看護診断ハンドブック 第 11 版 医学書院 看護過程の解体新書 学研				
評価方法	課題				
備考	臨床検査値、薬剤を調べるハンドブックを各自で準備				

授業科目	日常生活援助技術	単位数	1	授業時間	30
担当者	疋田理津子・臨床経験 6 年	学年	1	講義時間	30
科目目標	1. 対象を生活者として捉え、日常生活行動の意義を理解し、根拠にもとづいた援助が実践できる。				
回	授業計画・内容				方法
1 回 (環境)	1. 環境の諸要素とその調整 1) プライバシーと環境整備 2) 換気と臭気の排除 3) 室温と湿度の保持 4) 騒音の原因と排除 5) 採光と照明 2. 病室と病床の環境調整 1) 病室の環境調整 2) 色彩と備品の調和 3) 病院で用いられる主なベッド 4) 寝具 5) ベッドメイキング				講義
2 回	3. 臥床患者のシーツ交換				演習
3 回 (食事と) 栄養)	1. 食事摂取の意義としくみ 1) 食事・栄養摂取の意義 2) 食事・栄養摂取のしくみ 2. 食事・栄養摂取のアセスメント 1) 栄養状態 2) 食事の摂取内容 3) 水分の摂取と排泄 4) 食事の質、食習慣 5) 食事動作 6) 食事を妨げる要因 3. 患者への食事の援助 1) 食事の種類・形態 2) 経口摂取できる患者の食事介助 3) 治療食と食生活の指導 4. 経腸栄養 1) 経腸栄養とは				講義

4回	<ul style="list-style-type: none"> 2) 経鼻胃チューブによる栄養摂取の援助 3) 胃瘻による栄養摂取 5. 経鼻胃チューブ挿入中の患者の看護 6. 経管栄養中の患者の看護 	演習
5回 (排泄)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 排泄の意義としくみ 2. 排泄のアセスメント 3. 排泄の援助 4. 排便障害のある患者の援助 5. 排尿障害のある患者の援助 6. 排泄に関する処置 <ul style="list-style-type: none"> 1) 浣腸 2) 摘便 3) 一時導尿 4) 持続導尿 (留置カテーテル法) 	講義
6回	7. グリセリン浣腸の実際	演習
7回	8. バルーンカテーテルの挿入、バルーンカテーテル挿入中の患者の看護	演習
8回 (活動・ 休息)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 活動と休息 <ul style="list-style-type: none"> 1) 人間と運動 2) 人間と休息 2. 活動のアセスメント <ul style="list-style-type: none"> 1) 廃用症候群とそのリスクアセスメント 2) 運動機能のアセスメント 3) 運動機能の維持・回復のための援助 3. 運動機能の低下した人の援助 4. 安静保持の援助 5. 睡眠の援助 	講義
9・10回	6. スライディングシートによるストレッチャーへの移乗・移送	演習
11回 (清潔・ 衣生活)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 清潔と衣生活の意義 2. 清潔と衣生活に影響する要因 3. 清潔と衣生活の援助 4. 清潔行動・衣生活の自立困難な人への援助 <ul style="list-style-type: none"> 1) 入浴 2) 手浴・足浴 3) 陰部洗浄 	演習

<p>12・13回 14回 15回</p>	<p>4) 全身清拭 5) 洗髪 6) 口腔ケア 7) 整容 8) 衣生活 5. 全身清拭 6. 陰部洗浄 7. DIV・ドレーン等を留置している患者の寝衣交換</p>	<p>演習 演習 演習</p>
<p>テキスト</p>	<p>系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディック メディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディック メディア</p>	
<p>評価方法</p>	<p>筆記試験（別日程）</p>	
<p>備考</p>	<p>自己学習項目 リネンのたたみ方 クローズドベッドの作成 オープンベッドの作成 おむつ交換 歩行介助 車いす移乗・移送 手浴 足浴 寝衣交換 洗髪</p>	

授業科目	臨床看護総論	単位数	1	授業時間	30
担当者	山谷なぎさ・臨床経験 22 年 看護師	学年	1	講義時間	29
科目目標	1. 診療と検査、穿刺・意義、目的を理解し診察・検査・処置を受ける患者への看護技術を習得する。 2. 与薬の意義、目的を理解し与薬を受ける患者への看護技術を習得する。				
回	授業計画・内容				方法
1～3回	1. 手術療法と看護 1) 手術に伴う生体反応 2) 術後の疼痛 3) 麻酔が及ぼす影響 4) 周術期の患者の看護				講義
4回	2. 集中治療と看護 1) 集中治療が患者に及ぼす影響 2) 生命維持の援助 3. ME 機器と看護 1) 医療機器の種類 2) 医療機器の安全管理				講義
5回	4. 酸素ボンベ・シリンジポンプ・輸液ポンプの取り扱い				演習
6回	1. 与薬に関する基礎知識 1) 薬物療法の理解 2) 薬物療法における看護師の役割 3) 薬物療法を受ける患者の援助 2. 経口与薬法 3. 外用薬の皮膚・粘膜適用				講義（教官）
7・8回	4. 注射法 1) 注射の基礎知識 2) 皮下注射 3) 皮内注射 4) 筋肉注射 5) 静脈内注射 6) 点滴静脈内注射 5. 輸血療法				講義（教官）
9回	6. 検査に伴う看護の役割 1) 検体検査 2) 生体検査				講義（教官）

10・11回	7. 採血法	演習 (教官)
12・13回	8. 筋肉注射 (薬液の吸い上げを含む)	演習 (教官)
14回	9. 点滴静脈内注射 (刺入部の固定を含む)	演習 (教官)
15回	テスト・まとめ	
教科書 参考書	看護がみえる① 基礎看護技術 メディック メディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディック メディア 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院	
評価方法	筆記試験	
備考		

授業科目	看護研究	単位数	1	授業時間	30
担当者	小林愛子・臨床経験 14 年	学年	2	講義時間	29
科目目標	1. 看護研究の意義・目的・方法がわかる。 2. 看護研究に伴う倫理について理解できる。 3. 看護実践の意味づけができ、ケーススタディとしてまとめることができる。 4. 研究発表の方法を理解しケーススタディの発表ができる。				
回	授業計画・内容				方法
1 回	1. 研究とは 1) 定義と意義 2) 看護研究と看護理論				講義
2 回	2. 看護プロセスと研究課題の明確化 3. 文献の活用 1) 文献検索の方法 2) 文献の種類 3) 文献の読み方、整理の仕方				講義
3 回	4. 研究デザインと研究手法 1) 研究デザインとは 2) 研究デザインの種類と選択				講義
4・5 回	5. 具体的な研究の進め方 1) 研究計画書の作成 2) データ収集の仕方 3) データの整理と分析 4) 妥当性と信頼性				講義
6 回	6. レベル I・II・IIIの研究計画書				講義
7 回	7. ケーススタディの進め方・まとめ方				講義
8～10 回	個人ワーク				演習
11 回	8. プレゼンテーションの方法 1) 発表の種類 2) 口頭発表の準備 3) 発表原稿・発表資料の作成				講義・演習
12 回	テスト				
13～15 回	9. ケーススタディの実際 1) ケーススタディ発表 2) 質疑応答、評価				演習
テキスト	JJN スペシャル看護研究の進め方論文の書き方 第 2 版 医学書院				
参考書	黒田裕子の看護研究 step by step 第 5 版 医学書院 これからの看護研究－基礎と応用－ ノーヴェルヒロカワ				
評価方法	筆記試験 30 点/100 点、ケーススタディ 70 点/100 点				
備考					

授業科目	成人看護学演習	単位数	1	授業時間	30
担当者	軽部太一・臨床経験 15 年	学年	1	講義時間	30
科目目標	1. 成人期を対象とした看護過程展開の方法を学ぶ。 2. 成人期の看護に必要な看護技術について演習を通して習得する。				
回	授業計画・内容				方法
1 回	1. 肺がんの手術を受ける患者の看護（手術直後～回復期） ・術後合併症の予防・早期回復促進への援助 ・術後の機能障害と生活制限への援助 1) 成人期の肺癌手術療法患者の特徴				講義
2 回	2) 事例紹介				講義
3・4 回	3) 情報の分析・解釈				演習
5 回	4) 看護診断				演習
6・7 回	5) 看護計画立案				演習
8 回	2. 肺がんの手術を受ける患者の看護における看護過程のまとめ				講義
9 回	3. 看護診断・看護計画の共有				GW
10・11 回	4. 術直後と術後 2 病日の看護計画の立案				GW
12・13 回	5. 術直後の看護の実際				演習
14・15 回	6. 術後 2 病日の看護の実際				演習
テキスト 参考書	系統看護学講座 成人看護学総論 成人看護学① 医学書院 系統看護学講座 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院				
評価方法	課題、グループワークおよび演習への取り組み				
備考					

授業科目	老年看護学演習	単位数	1	授業時間	30
担当者	山谷なぎさ・臨床経験 22 年 吉田輝子・臨床経験 26 年	学年	2	講義時間	30
科目目標	1. 高齢者の特徴を踏まえ、事例を通して看護過程が展開できる。 2. 高齢者に対する基本的な援助技術を学ぶ。				
回	授業計画・内容				方法
1 回	1. 大腿骨頸部骨折の患者の看護				講義
	1) 大腿骨頸部骨折患者の特徴				
	2) 事例紹介				
	3) 情報の分析				演習
2～5 回	4) 看護診断				
	5) 計画立案				
6 回	6) 全体発表				
7 回	7) 摘便の援助・おむつ交換				演習
8 回	2. 高齢者の特徴を踏まえた脳梗塞の患者の看護				講義
	1) 脳梗塞患者の特徴				
	2) 事例紹介				
9～12 回	3) 情報の分析				演習
	4) 看護診断				
	5) 計画立案				
13 回	6) 全体発表				
14 回	7) 退院調整・退院支援				講義
15 回	8) 嚥下障害・構音障害がある義歯を入れている高齢者の口腔 ケア				演習
テキスト	系統看護学講座 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 臨床看護学総論 基礎看護学④ 医学書院 看護過程の解体新書 学研 生活機能のアセスメントにもとづく老年看護過程 医歯薬出版				
評価方法	課題				
備考					

授業科目	小児看護学概論	単位数	1	授業時間	15
担当者	大家枝利・臨床経験 12 年	学年	1	講義時間	14
科目目標	1. 小児期にある対象の特徴が理解できる。 2. 小児看護の役割・機能を理解できる。 3. 子どもの権利を保障することの必要性について理解できる。 4. 母子保健、小児保健のあり方について理解できる。				
回	授業計画・内容				方法
1回	1. 子どもと家族を取り巻く環境				講義
2・3回	2. 小児医療・小児看護の変遷と課題 3. 小児期における成長・発達の特徴と看護 4. 新生児・乳児・幼児・学童・思春期各期の形態的、機能的、認知的、社会的成長発達 5. 成長・発達の評価				個人ワーク +GW
4回	6. 小児各期における健康増進のための子どもと家族への看護 1) 乳児期・幼児期・学童期・思春期の成長・発達に応じた生活への支援				講義
5回	7. 小児における概念と理論 1) エリクソンの自我発達理論、ピアジェの認知発達理論、ボウルビィらの愛着理論、マラーの分離・固体化理論 2) 家族関係に関する概念と理論				講義
6回	8. 保健統計からみた小児と健康問題 9. 小児を守る法律と制度 1) 母子保健施策・学校保健対策、児童福祉法、児童虐待防止法 障害者総合支援法、発達障害者支援法 2) 子どもの事故防止と安全教育 3) 予防接種				講義
7回	10. 子どもの最善の利益にかなう医療・看護 1) 小児看護と倫理的配慮 2) 子どもの権利と人権：児童の権利に関する条約、児童憲章 3) 虐待防止				講義
8回	まとめ・テスト				
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学① 医学書院				
評価方法	筆記試験				
備考					

授業科目	小児看護方法論	単位数	1	授業時間	30
担当者	大家枝利・臨床経験 12 年 看護師 2 名	学年	1	講義時間	29
科目目標	1. 子どもの発達段階に応じた健康増進の看護について学ぶことができる。 2. 健康障害が子どもや家族に及ぼす影響を理解し、その援助方法について理解できる。				
回	授業計画・内容				方法
1・2回	1. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護 1) 入院中・外来における子どもと家族の看護 2) 在宅療養中の子どもと家族の看護 3) 災害時の子どもと家族の看護				講義
3・4回	2. 子どもにおける疾病の経過と看護 1) 慢性期の看護の特徴 2) 急性期の看護の特徴 3) 周手術期の看護の特徴 4) 終末期の看護の特徴				講義
5・6回	3. 小児にみられる主な症状と看護 (1) 発熱 (2) 脱水 (3) 下痢・嘔吐 (4) 呼吸困難 (5) 意識障害・けいれん (6) 痛み				講義
7回	4. 救命処置を要する小児と家族への看護 5. 虐待が疑われる小児と家族				講義
8回	6. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響 2) 子どもの健康問題と看護				講義
9回	7. 子どものアセスメントと必要な看護技術 1) コミュニケーション技術 2) プレパレーション 3) フィジカルアセスメント				講義
10回	8. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 与薬・輸液管理 2) 検体採取				講義

11回	9. 活動制限が必要な子どもと家族への看護	講義
12・13回	10. 感染対策上隔離が必要な子どもと家族への看護 11. 小児によくみられる疾患とその治療 事例：小児喘息の患児の看護（幼児） 事例：ファロー四徴症でB-T短絡術を受ける患児の看護(乳児) 事例：I型糖尿病の患児の看護（思春期）	講義
14回	12. 障害のある子どもと家族の看護 重症心身障害児の看護 痙攣性疾患を持つ子どもと家族の看護	講義
15回	テスト・まとめ	
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護概論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院	
評価方法	筆記試験	
備考		

授業科目	小児看護学演習	単位数	1	授業時間	30
担当者	大家枝利・臨床経験 12 年	学年	2	講義時間	30
科目目標	1. 子どもの特徴を踏まえ事例を通して看護過程が展開できる。 2. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる。				
回	授業計画・内容				方法
1～8 回	1. 看護過程の展開 川崎病患児の事例展開				演習
9～12 回	2. 治療に伴う小児看護技術 1) 水薬の与薬 2) 採血時のプレパレーション				演習
13・14 回	3. 痙攣性疾患を持つ患児の看護（アセスメントの視点） 4. 重症心身障害児の看護（アセスメントの視点）				講義 講義
15 回	まとめ				演習
テキスト	系統看護学講座 小児看護学概論 小児臨床看護概論 小児看護学① 医学書院 系統看護学講座 小児臨床看護各論 小児看護学② 医学書院				
参考書	看護過程の解体新書 学研、 発達段階を考えたアセスメントにもとづく小児看護過程 医歯薬出版				
評価方法	課題				
備考					

授業科目	母性看護学概論	単位数	1	授業時間	15
担当者	山谷なぎさ・臨床経験 22 年	学年	1	講義時間	14
科目目標	1. 母性各期において健康に影響を及ぼす諸因子を理解し、母性の健康増進に向けた援助が理解できる。 2. 母性概念が理解できる。 3. 母性看護の倫理と法律について理解できる。 4. 人間の性と生殖について理解できる。				
回	授業計画・内容				方法
1・2回	1. リプロダクティブ・ヘルスに関する看護 1) リプロダクティブ・ヘルスに関する概念 2) 生殖に関する生理 3) リプロダクティブ・ヘルスに関する世界・日本の動向				講義
3回	4) リプロダクティブ・ヘルスに関する倫理 5) リプロダクティブ・ヘルスに関する法や施策と支援				講義
4・5回	2. 女性のライフサイクル各期における看護 1) 思春期・成熟期女性の健康課題 2) 更年期・老年期女性の健康課題				講義
6・7回	3. 妊娠・分娩・産褥期および早期新生児期における看護の対象と基盤となる概念 1) 対象理解の基盤となる概念 2) 看護の基盤となる概念 4. 周産期医療のシステムと母子保健施策 1) 周産期医療のシステム (1) 母体搬送 (2) 新生児搬送 (3) チーム医療 (4) 周産期医療ネットワーク 2) 母子保健法に関する施策の活用 (1) 妊婦健康診査 (2) 新生児訪問指導 (3) 乳幼児健診 (4) 未熟児養育医療と未熟児訪問指導 3) 子育て支援に関する施策の活用 (1) 産前・産後休業、育児休養 (2) 妊娠・出産包括支援 (3) 子ども・子育て支援事業 (4) 在留外国人の母子支援 (5) 災害時の母子支援				講義

8回	まとめ・筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 母性看護学概論 母性看護学① 医学書院	
評価方法	筆記試験	
備考		

授業科目	在宅看護概論	単位数	1	授業時間	15
担当者	疋田理津子・臨床経験6年	学年	2	講義時間	14
科目目標	1. 地域で生活しながら療養する人々とその家族を理解し、在宅における看護について理解する。 2. 在宅看護の意義と役割を理解する。				
回	授業計画・内容				方法
1・2回	1. 地域療養における在宅看護の機能・理念と社会的背景 1) 在宅看護を必要とする社会的課題と、訪問看護の変遷 2) 在宅看護の役割・機能と基本理念・倫理 3) 地域包括ケアシステムにおける在宅看護と多職種連携				講義
3・4回	2. 在宅看護の対象と、在宅療養の成立要件 3. 在宅療養者の場における家族 1) 家族の特徴と機能 2) 家族に関する基礎理論 3) 家族のアセスメントと調整・支援				講義
5回	4. 訪問看護制度の法的枠組みと、地域療養を支える制度 1) 介護保険法 2) 健康保険法（地域医療構想） 3) 障害者総合支援法				講義
6回	5. 訪問看護サービスの仕組み 1) 訪問看護ステーション開設基準 2) 訪問看護サービス開始までの流れ 3) 訪問看護サービスの展開 4) 訪問看護サービスの質保証 5) 訪問看護サービスの管理・運営				講義
7回	6. 在宅における安全と健康危機管理 1) 在宅療養における安全管理・感染管理 2) 災害時における在宅療養者と家族の健康危機管理				講義
8回	まとめ・テスト				
テキスト	地域療養を支えるケア 在宅療養を支える技術	在宅看護論① 在宅看護論②	MC MC	メディカ出版 メディカ出版	
評価方法	筆記試験				
備考					

授業科目	在宅看護論演習	単位数	1	授業時間	30
担当者	疋田理津子・臨床経験6年	学年	2	講義時間	30
科目目標	1. 在宅における社会資源を活用した生活支援の方法を理解する。 2. 療養の場の移行に伴う継続看護の視点を理解する。 3. 地域包括支援センターにおける支援事例から、在宅療養を支援する看護の視点を理解する。				
回	授業計画・内容				方法
1～4回	1. 在宅療養者の病期に応じた事例の看護展開の基本 1) ADL低下および疾病の再発予防が必要な療養者の看護 2) 急性期にある療養者の看護 3) 慢性期にある療養者の看護 4) 回復期にある療養者の看護 5) 終末期にある療養者の看護				講義 事例演習
5～8回	2. 特徴的な疾病がある在宅療養者事例への社会資源を活用した看護展開の基本 1) 小児の在宅療養者への看護 2) 認知症の在宅療養者への看護 3) 精神疾患がある在宅療養者への看護 4) 難病がある在宅療養者への看護 5) 在宅酸素療法が必要な療養者への看護の実際				講義 事例演習
9回	3. 療養の場の移行に伴う継続看護の実際				TEIJIN
10～12回	1) 医療機関への入退院時における連携 2) 施設への入退所における連携 3) 療養の場の移行に伴う多職種の役割と看護との連携				講義
13・14回	4. 地域包括支援センターにおける看護介入の実際（事例共有）				事例演習
15回	まとめ				
テキスト	地域療養を支えるケア 在宅看護論① MC メディカ出版 在宅療養を支える技術 在宅看護論② MC メディカ出版				
評価方法	課題				
備考	13・14回は在宅看護論実習中に見学した実際の事例について共有				

授業科目	臨床看護技術演習	単位数	1	授業時間	30
担当者	軽部太一・臨床経験 15 年	学年	2	講義時間	30
科目目標	1. 知識・技術・態度を統合し模擬患者に応じた安全・安楽な援助を実施できる。 2. 複数患者の事例を通して対象のおかれている場・状況・状態に応じて多重課題の優先度を考えることができる。				
回	授業計画・内容				方法
1～3回	1. 複合技術を必要とする患者の援助 1) オリエンテーション 2) 事例紹介 3) アセスメント 4) 計画立案 ※ 課題について必要な援助方法を考える。				講義・演習
4回	2. 計画した内容をグループごとに実施、発表内容の検討・実施（ロールプレイ）				GW
5回	3. 発表（シミュレーション）・グループごとに振り返り				演習・GW
6回	4. 発表の振り返り				講義
7～9回	5. 多重課題による優先順位の選択 1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) 事例紹介 4) アセスメント 5) 根拠を明確にしなが優先順位判断と時間配分を考慮した援助を考える 6) 計画立案				講義・演習
10・11回	6. 計画した内容をグループごとに実施、発表内容の検討・実施（ロールプレイ）				GW
12回	7. 発表（シミュレーション）・グループごとに振り返り				演習・GW
14回	8. 発表の振り返り ※ 実施の振り返り				講義
15回	9. まとめ				講義
テキスト 参考書	系統看護学講座 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ 医学書院 系統看護学講座 臨床看護総論 基礎看護学④ 医学書院 看護がみえる① 基礎看護技術 メディック メディア 看護がみえる② 臨床看護技術 メディック メディア 系統看護学講座 看護管理 看護の統合と実践① 医学書院 系統看護学講座 医療安全 看護の統合と実践② 医学書院 看護診断ハンドブック 第11版 医学書院				
評価方法	個人ワーク課題・演習の取り組み状況				
備考					

